

2026 年（令和 8 年）度
一般入学試験 A 日程問題

2 教科方式・3 教科方式

注 意 事 項

- (1) 試験開始の合図があるまで問題用紙を開かないでください。
- (2) 2 教科方式・3 教科方式の試験問題は共通です。
- (3) 試験時間は、2 教科方式が 60 分、3 教科方式が 120 分です。
- (4) 試験問題は、日本史が日 1～日 12 ページ、世界史が世 1～世 11 ページ、数学が数 1～数 9 ページ、国語が国 1～国 27 ページまであります。なお、国語は裏表紙からはじまります。
- (5) 試験中に問題用紙の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて試験監督者に知らせてください。
- (6) マーク解答用紙に座席番号、氏名を記入してください。なお、2 教科方式・3 教科方式ともに「選択科目」のマーク解答用紙の受験科目欄に、受験する科目を 1 つだけマークしてください。
- (7) 解答は各問の指示に従って、マーク解答用紙の解答欄にマークしてください。
- (8) 試験終了後、問題用紙は持ち帰ってください。

国語

※「2教科方式」の受験者は、マーク解答用紙の受験科目欄に、受験する科目のマークを忘れずに記入してください。

一 「科学的世界観の下で自由に居場所はあるか」という問題について述べた次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(50点)

著作権保護のため掲載していません。

著作権保護のため掲載していません。

著作権保護のため掲載していません。

著作権保護のため掲載していません。

著作権保護のため掲載していません。

（山口尚『人が人を罰するということ——自由と責任の哲学入門』より）
※出題の都合上、一部中略・改変した箇所がある。

注 前節で語ったように…前節とは、本文冒頭からこの直前までの部分を指す。

問一 傍線部①「複雑な」と同じ品詞・用法のものとして、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。

解答番号は1。(4点)

- a 大きな経済格差がさまざまな問題を引き起こしている。
- b 塩を振ってしなしなとしている青菜を手でしぼる。
- c どんなときも、読書は心のなぐさめになる。
- d 登校すると、「今日は早いな」と先生に声をかけられた。
- e 彼が進めている密かな計画に誰も気づかなかった。

問二 傍線部②「たいへん気持ちの悪い状況」の説明として、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。

解答番号は2。(4点)

- a 科学的世界観に従えば、人間の自由意志について検討することはそもそも無意味なはずであるが、そのことを認められず、自分の中の論理と感情が矛盾している状況。
- b 科学的世界観に従えば、自由な選択という概念は存在しないはずだが、他方で人間が自由な選択主体であるという実感も否定できないという矛盾している状況。
- c 科学的世界観に従えば、自由な選択は存在しないはずであるのに、自分の主観的経験では自由な選択が存在することは疑いようがなく、矛盾している状況。
- d 科学的世界観に従えば、人間の選択の自由感は物理的存在の組み合わせとして説明ができるはずなのに、実際の自分の選択には非合理的な要素があり矛盾している状況。
- e 科学的世界観に従えば、あらゆる現象は物理法則の結果として説明できるはずなのに、人間の自由な選択については説明がつかない部分があるという矛盾している状況。

問三 傍線部③に関連して、「わたくしといふ現象は」で始まる序文を含む詩集『春と修羅』を著した詩人を次の中から一人選びなさい。解答番号は3。(3点)

a 室生犀星 b 北原白秋 c 萩原朔太郎 d 宮沢賢治 e 島崎藤村

問四 空白部 I に入る語として、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。解答番号は4。(3点)

a 達観 b 樂觀 c 悲観 d 概観 e 傍観

問五 空白部 ア 〓 ウ には、文をつなぐ言葉が入る。その組み合わせとして、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。解答番号は5。(5点)

	e	d	c	b	a	
	例えば	つまり	だが	それでも	逆に	ア
	しかし	だから	あるいは	けれども	もともと	イ
	もしくは	ともかく	要するに	すなわち	こうして	ウ

問六 傍線部④「苦悩はいっしか消えた。」とあるが、筆者はどのような状態に至ったのか。その説明として、次の中から最も適切なものを選びなさい。解答番号は6。(4点)

- a 科学的世界観と、自由な選択が存在するという自分の実感との間にある矛盾を完全に解消することはできなかったが、部分的には両者が両立しうることを知った状態。
- b 自分がリアリティを感じていた科学的世界観に対する疑問を掘り下げることを通じて、自由な選択との間にある矛盾が些末な問題であることに気づいた状態。
- c 科学的世界観の帰結として人間が自由な選択主体であることが、〈自由〉や〈選択〉などの概念の適用対象について吟味することで実感できるようになった状態。
- d 科学的世界観の帰結と、自分の実感との間にある矛盾を解消することはできなかったが、後者をたしかに支える根拠となる事実を見出すことができた状態。
- e 自分がリアリティを感じる世界観と、自由な選択主体としての人間という自分の理想との間にある葛藤を乗り越え、両者の現実的な妥協点を見出している状態。

問七 傍線部⑤「これらの概念」とあるが、その説明として、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。

解答番号は7。(4点)

- a ただ生じる自然現象から、行為主体がすることを分ける働きがある。
- b 行為主体がすることから、ただ生じる自然現象を取り出す働きがある。
- c 「誰がしたのか」という主体と「何をしたのか」という行為を区別する働きがある。
- d たんに自然現象が生じることを、行為主体がすることに変える働きがある。
- e ただ生じる自然現象との対比を通じて行為主体がすることを強調する働きがある。

問八

空白部

A

に入る文として、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。解答番号は8。(5点)

- a それゆえ雷という自然現象はむしろ「自由かどうか」や「選択があるか」という問いの設定の意義自体に疑問を提示するものとなる。
- b それゆえ雷のような自然現象は行為主体から「自由かどうか」や「選択があるか」という問いの可能性を取り除いた性質の概念といえる。
- c それゆえ雷といういわば客体的な自然現象については「自由かどうか」や「選択があるか」を問いかけても、一律の答えは得られない。
- d それゆえ雷という自然現象の行為主体としての性質は「自由かどうか」や「選択があるか」という問いで明らかになる。
- e それゆえ雷といういわば無主体的な自然現象については「自由かどうか」や「選択があるか」はそもそも問題にならない。

問九 傍線部⑥「『自由な選択は無い』という主張の含意」の説明として、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。解答番号は9。(5点)

a 主体の行為には完全な自由は存在せず、自然の物理的制約の中でしか自由な選択は成立しないということ。

b 〈自由〉・〈選択〉・〈主体〉・〈行為〉といった概念には相互に矛盾があり、複数の要素が両立する世界はないということ。

c 人間の行為の主体性は見せかけに過ぎず、この世界にあるのはただ生じる自然現象だけであるということ。

d 人間が感じている自由性は物理現象的世界像によって生み出された主観的な錯覚に過ぎないということ。

e 人間が実生活で自由な選択を行なっても、物理現象的世界像の中では、その自由性を立証できないということ。

問十 空白部Ⅱに入る語として、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。なお、二つある空白部には同じ語が入る。解答番号は10。(3点)

a 喜劇 b 実存 c 逆説 d 極北 e 経済

問十一 傍線部⑦「この点をつかむことはいわば『地に足のついた』仕方で人間的自由を考察するための出発点なのである」とあるが、どういうことか。その説明として、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。

解答番号は11。(5点)

- a 〈自由〉や〈選択〉という概念を〈主体〉や〈行為〉の適用対象と考えることは、人間らしい自由のあり方を哲学的な視点から模索するきっかけとなるということ。
- b 〈自由〉や〈選択〉という概念を〈主体〉や〈行為〉と結びつけて考えることは、人間らしい自由を現実的な視点から着実に考察するためのよりどころとなるということ。
- c 〈自由〉や〈選択〉という概念から〈主体〉や〈行為〉という概念を切り分けて考えることは、人間が着実に自由を実現する方法を検討する前提となるということ。
- d 〈自由〉や〈選択〉という概念を〈主体〉や〈行為〉の一部としてとらえることは、見落としがちな視点をもらさずに人間の自由について考える土台となるということ。
- e 〈自由〉や〈選択〉という概念を物理現象的世界像にとらわれずに考えることは、人間の自由の現実的なあり方をとらえるためのヒントとなるということ。

問十二 本文の内容として、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。 解答番号は12。 (5点)

a 科学的世界観は、人間は自由な選択主体だという考えとの間の矛盾を乗り越えることができないが、自由という概念に主体と行為の対象となるかという条件を設定することで、物理現象的世界像の中に自由の概念を描くことができる。

b 人間は自由な選択主体だという考えは、科学的世界観と明らかに矛盾しており、自由という概念自体が、物理現象的世界像からそうでない部分を区別する働きをもっているのだと考えても、やはり一切は単なる物理現象に過ぎないといえる。

c 科学的世界観と人間は自由な選択主体だという考えの矛盾を乗り越えることができなくても、自由という概念自体が、物理現象的世界像からそうでない部分を区別する働きをもっているのだと考えれば、人間は自由な選択主体であるという実感を得ることができる。

d 実生活において単なる自然現象と主体の行為の対比軸がどのようなものか吟味すれば、科学的世界観が主体や行為という概念と結びついて思考されることによって、物理現象的世界像にとどまらない概念をつかむ基盤になっていることが分かる。

e 科学的世界観が人間は自由な選択主体だという考えと矛盾しているように思えるのは奇妙なことだが、この奇妙さは自由という概念自体が、物理現象的世界像を導入する前の、主体や行為について適用されるために発生したものである。

二 次の文章と資料を読んで、後の問いに答えなさい。(40点)

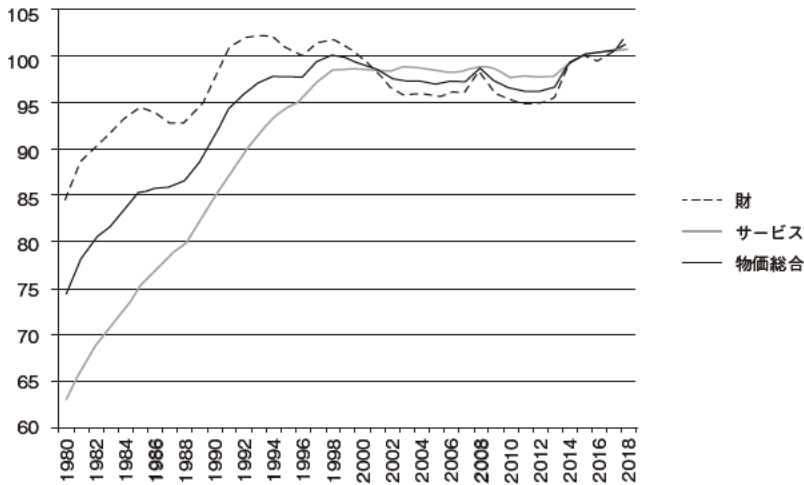
記憶している者も多いだろうが、経済の衰退のなかで、九〇年代なかば以降、価格の切り下げ競争が多く分野で始まった。マクドナルドが二〇〇〇年にハンバーガーを六五円に値下げし、翌年、吉野家が牛丼の価格を四〇〇円から二八〇円に下げるなど、外食産業でまず価格競争が目立った。それと並行し、ユニクロが二〇〇〇年代に店舗数を急増させ、続いてH & MやFOREVER 21といった海外チェーン店の進出がみられるなど、安価なファストファッションも定着していったのである。

それらを代表として、物価の連鎖的な下落や停滞がその時代には続いていく。実際、消費物価指数をみれば、一九九〇年代には上昇にかげりがみられ、一九九八年以降は下降に転じている(【資料1】)。財(非モノ)とサービス(非コト)に分けるならば、とくに財の低下が九〇年代前半より目立っており、つまりモノが安価になることで消費が容易になったことが――「モノ消費からコト消費へ」というよくある図式に反して――確認されるのである。

景気の悪化によって物価の低下は基本的には引き起こされたといえるが、他方でそれが所得の減った人びとを少なからず助けたことも見逃せない。①収入の低下は、量的にはたしかに消費支出の減少を導く。ただし同程度に、消費活動を停滞させるとはいえない。使えるお金の減少は、商品の価格の下落によって打ち消されるからであり、たとえば食費と被服費において消費総額はその時期とくに減少したが、それはファッション産業では「衣料」全般、食料に関してはとくに「ハンバーガー」や「牛丼」などの格安なチェーン店が食事の価格を下げることによって、少なくとも部分的には代償されてきたのである(【資料2】)。

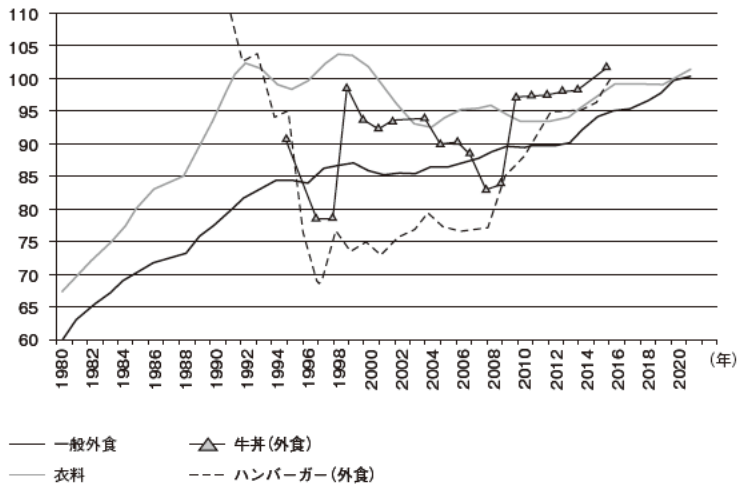
こうした状況はより一般的には、消費物価指数(非商品の価格)を消費水準指数(非購買力)で割った数値から確かめられる(【資料3】)。この数値は、物価を考慮に入れた消費の困難さを表現するものといえるが、まず全体的にみれば、たしかにおよそ四〇年のあいだに数値が大きく上昇していることが確認される。これは総体として

【資料 1】消費物価指数



(消費物価指数より作成)

【資料 2】消費物価指数

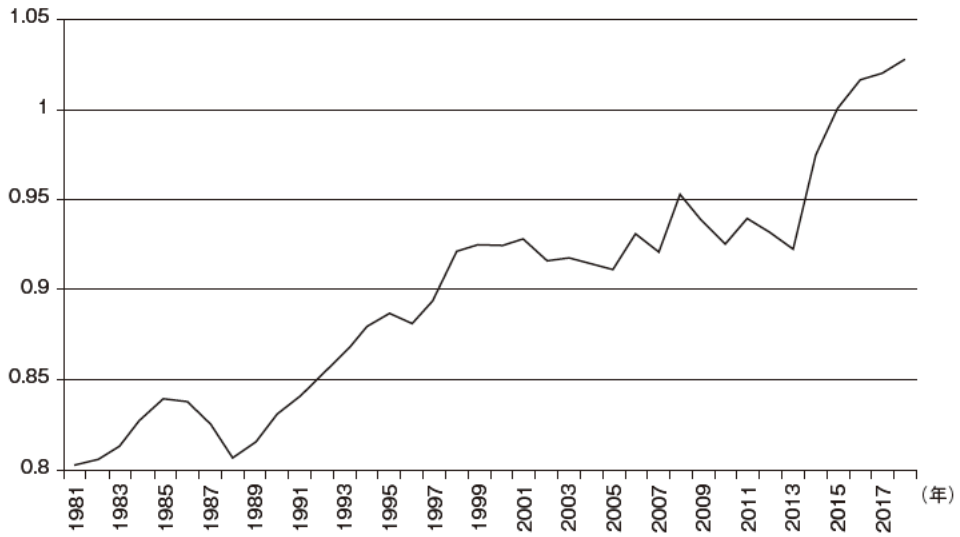


(消費物価指数より作成)

消費の状況が厳しくなったことを大きくは表現しており、バブル崩壊以降消費支出の量が年々減ったことにおもに左右されている。ただし興味深いのは、九〇年代末から二〇一〇年代初めの約一五年という比較的長期のあいだ、グラフがほぼ水平に保たれていること(九八年〇・九二一に対し二〇一三年も〇・九二二)である。同時期に消費支出は減り続けたが、物価の減少がそれを補うことでグラフは停滞していると考えられる。つまり物価のさらなる低下とほぼ釣り合うことで、この時期、消費の

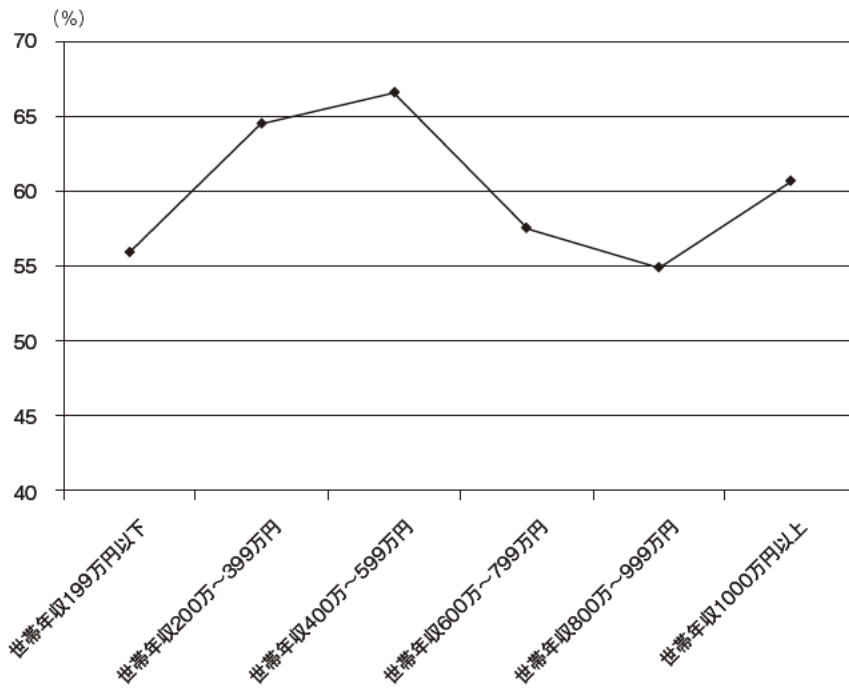
I は償われていったのである。

【資料3】消費物価指数／消費水準指数



(消費物価指数、家計調査より作成)

【資料4】世帯年収別「100円ショップによく行く」割合



一九九〇年代末から二〇一〇年代初めにかけて、物価の下落が購買力の減退を代償する。こうした現象の中心にあったのが、モノを安価に売るデフレ的ショップの興隆であり、なかでも一〇〇円ショップの人気である。

一〇〇円ショップは一九九〇年代後半に一気に成長を始め、たとえば一九九六年に三二二億円だったダイソーを運営する大創産業の売上は、二〇〇〇年には二〇二〇億円まで急成長した。同期間にキャンドゥは三一億円から二〇七・三億円、セリアは四〇・六億円から二〇四億円までと、軒並み六倍前後売上を増加させている。一〇〇円ショップはそうして九〇年代後半に急成長し、スーパーやコンビニ、ドラッグストアに並び、バブル崩壊後の日本人が日常的な商品を購入する欠かせない店舗として定着したのである。

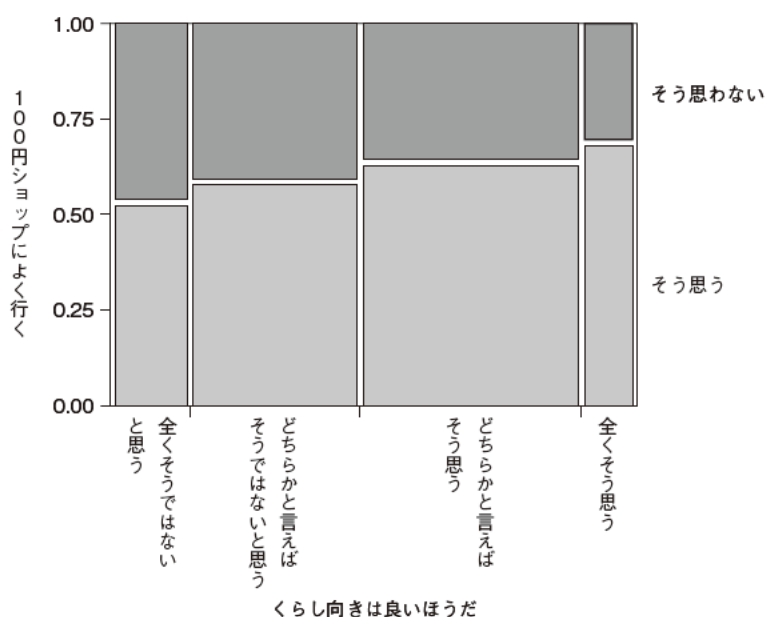
ア それ以前にも、安値定額で食器や文具などを売る店がなかったわけではない。水原紹によれば、江戸時代にも十九文均一で商品を買った「十九文見世」があったといい、また大正から昭和初期にかけては、より直接的な先祖としての一〇銭ストアや、百貨店の売り場のなかで一〇銭均一コーナーが一般化する。さらに戦後には、トラックで各地を回りB級品を低価格で売りつけるいわゆる「バツタ屋」が多数出現し、繁盛していった。一九七七年に開業したダイソーがそうだったように、少なくとも初期の一〇〇円ショップの多くはそれら安値で売る店を母体としてつくられていったのである。

ただし一〇〇円ショップには、そうした「バツタ屋」にはない特徴もみられた。一〇〇円ショップは、①一〇〇円という安価な値で統一することで販売しやすく、また買いやすかったことに加え、②**Ⅱ**に力を注いでいった。たとえばダイソーの創業者矢野博丈は、「商品の原価率をあげると同時に、他店よりも二倍、三倍の商品を並べ」ることで、ダイソーは他の移動販売との差別化に成功したと説明している。「安かろう悪かろう」ではなく、できるだけ原価の高い高品質の商品を仕入れ、それを多品種、並べて売ることが、ダイソーの急成長の原動力になったというのである。

一〇〇円ショップはそうしてたんに商品を安く売るだけではなく、消費者が安心して、また楽しんで買い物ができる環境を整えていった。だからこそ貧困層に限定されない多様な客を取り込むことにも成功した。筆者の調査で

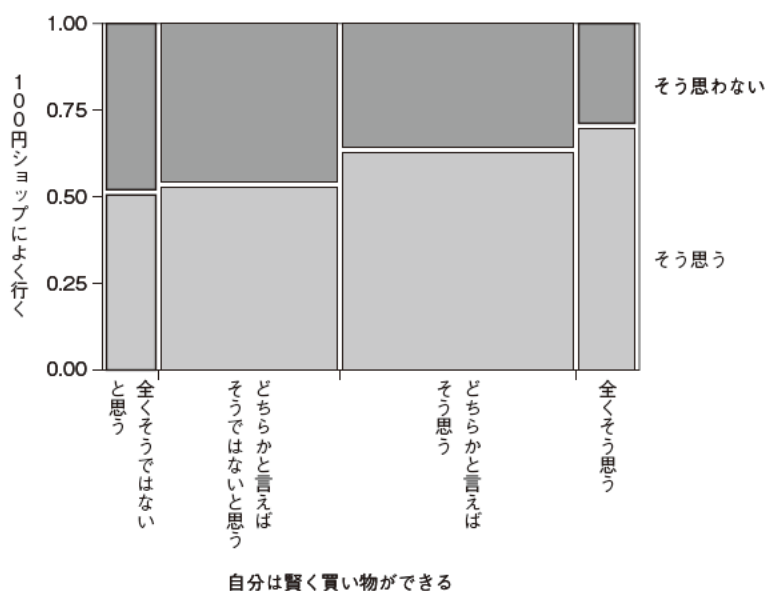
【資料5】「くらし向きが良いほうだ」と

「100円ショップによく行く」者のクロス



【資料6】「自分は賢く買い物できる」と

「100円ショップによく行く」者のクロス



も、一〇〇円ショップは低所得者層ばかりに利用されているわけではない。「一〇〇円ショップによく行く者」は世帯年収二〇〇万～五九九万円あたりに多い一方で、世帯年収一〇〇万円以上でも再び増加してくる（【資料4】）。富裕層の取り込みは、生活実感とのかわりにおいても確認される。「くらし向きが良いほうだ」と考える者ほど、むしろ「一〇〇円ショップによく行く」っている傾向がみられるのである（【資料5】）。

ではなぜ貧しい者だけではなく、比較的豊かで生活に余裕がある者も、一〇〇円ショップに通っているのだろうか。注目されるのは同じ調査で、「自分は賢く買いたい物ができる」という設問に対して肯定的に答える者が、一〇〇円ショップをよく利用していることである（【資料6】）。ここでの「賢く」という言葉が、①価格が安いモノを買うことと、②質が良いモノを買うことのどちらとしてアンケート対象者に受け取られたかは、残念ながら調査からはあきらかではない。ただし両者の意味は、そもそも切り離せないともいえる。ロンドンのある通りでの住人の買い物行動を調査した文化人類学者のダニエル・ミラーは、購買活動は通常、価格と質、どちらがだめでも、うまくいったとはみなされないと述べている。むしろ両者のバランスが取れる、ちょうどよい商品を見つけることこそ買ひ物の成否を定めるのであり、それができたときに「賢く」買えたことになるというのである。

値段と質の両者のあいだでこうしてバランスを取る「賢い」買ひ物を可能にする②恰好の舞台に一〇〇円ショップはなつたといえる。ダイソーの創業者の矢野博丈が主張していたように、一〇〇円ショップは、その値段から勘案すれば質がよい商品を多数販売していく。おかげで客は詐欺的行為にあうのではないかと恐れることなく、自分の好みにあった商品を心ゆくまで探して買えるようになった。一定の質がその店のバイヤーによって保証されていることに加え、一〇〇円ショップではその安価さゆえに、失敗しても大した損失を被ることなく何度でも買ひ物やり直すことができるからである。

この意味では、③一〇〇円ショップが売っているのは、あれやこれやのモノとばかりはいえない。そもそも一〇〇円ショップでなくとも、安い商品やより質の良い商品を見つけることは不可能ではない。それに対して一〇〇円ショップの魅力は、「安さ」と「質の良さ」の両者のあいだでバランスをとって「賢く」買ひ物できることにあるのではないか。ときに「宝探し」と形容されることもあるが、数多くの商品のなかから、質がよくさらに値段もリーズナブルな掘り出しモノをみつけるというゲームを一〇〇円ショップで客は楽しむことができる。そうしてそのゲームを上手くやり遂げる満足感そのものが、一〇〇円ショップの何よりも「売り」になっているのである。

そしてだからこそ、貧困層のみならず、富裕層も一〇〇円ショップをしばしば日常的に利用していると考えられ

る。「賢く」買うことの満足感は、多くのお金を支払えばかならず手に入れられるものではない。多く払えば払うほど、割に合わない買い物をするリスクも高まるためだが、それに対して一〇〇円ショップは「賢い」消費を気安く、また安心して経験させてくれる場として、階層を超え日本社会にすっかり定着しているのである。

（貞包英之『消費社会を問いなおす』より）

※出題の都合上、一部中略・改変した箇所がある。

問一 傍線部①「収入の低下」とあるが、その影響の説明として、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。
解答番号は13。(5点)

- a 物価の下落と並行する場合は、消費活動の停滞を導くとは限らない。
- b 消費支出の減少や物価の下落だけでなく、消費活動の停滞を引き起こしてきた。
- c 消費支出の減少をまねき、その結果として物価の下落を引き起こしてきた。
- d 消費支出の減少をもたらしたが、景気の悪化の長期化への影響は限定的だった。
- e 物価の下落とそれと連鎖するコスト消費への転換をもたらしてきた。

問二 空白部Ⅰに入る語として、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。解答番号は14。(4点)

- a 質的減退 b 質的拡大 c 質量的停滞 d 量的減退 e 量的拡大

問三 空白部アに入る語として、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。解答番号は15。(4点)

- a むしろ b もちろん c つまり d ところが e たとえば

問四 空白部Ⅱに入る文として、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。解答番号は16。(4点)

- a 珍しい商品を多数、品揃えしなぞろえすること
- b 質の高い商品を多数、品揃えすること
- c 質の高い商品を少数、品揃えすること
- d 珍しい商品を厳選して、品揃えすること
- e そこそこの質の商品を一定の量、品揃えすること

問五 傍線部②「恰好の」の意味として、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。

解答番号は17。(3点)

- a 華々しい
- b 人目を引く
- c 新しい
- d 見栄えがいい
- e ふさわしい

問六 傍線部③「一〇〇円ショップが売っているのは、あれやこれやのモノとばかりはいえない」とあるが、どういうことか。その説明として、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。解答番号は18。(5点)

- a 一〇〇円ショップは多様なモノを手でできる場所であるというだけではなく、客側が許容できるリスクに応じて主体的な買い物体験ができる場となっているということ。
- b 一〇〇円ショップは安価なモノが欲しいという客側の要求に合わせるだけではなく、高品質な商品にいかにつけていかに活用するかという創意工夫を行う場となっているということ。
- c 一〇〇円ショップは安価なモノや高品質なモノといった、商品そのものへの需要を満たしているだけでなく、賢く買い物したいという客の経験に対する欲求も満たしているということ。
- d 一〇〇円ショップは高品質なモノを安価に売るだけではなく、客側が想像もししていなかった掘り出しモノを見つけたという新鮮な経験ができる場となっているということ。
- e 一〇〇円ショップは「安さ」と「質の良さ」を両立したモノを売るだけでなく、異なる社会階層どうしをつなぐゲーム性のある共通体験を提供しているということ。

問七

本文の内容として、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。解答番号は19。(5点)

a 人びとの消費行動の志向がモノ消費からコト消費へと移っていく時流に応える形で、一〇〇円ショップは発展を遂げ定着してきた。

b 人びとは一〇〇円ショップを通じてモノだけでなく賢く買い物することを楽しんでいるが、そのことは所得格差の拡大と表裏一体であった。

c 景気の悪化とそれに伴う物価の低下は一〇〇円ショップという新しい業態の発展を促し、人びとの消費行動を大きく変えることになった。

d 一〇〇円ショップが登場し普及してはじめて、人びとが安心して買い物できる場が広がり、買い物というゲームを楽しむ余地が生まれてきた。

e 日本経済の衰退のなかで生まれて発展した一〇〇円ショップは商品の価格や品質以外の価値も提供しており、その利用者の所得階層は幅広い。

次に示すのは、前に示した文章を読んだ後に、二人の生徒と教師が話し合っている場面である。

生徒A——【資料1】は折れ線が上に行けば行くほど物価が上昇しているという理解でよいのですよね。

教師——そうですね。一九九八年の「物価総合」の消費物価指数を一〇〇としたときに、それを構成している「財」や「サービス」などの指数とあわせて、これらがどのように変動してきたのかを示しています。

生徒A——なるほど。社会科で学習した「バブル経済」以降の経済の変動を物価の面から図示化したようなものですね。

生徒B——では、【資料2】は、【資料1】の「財」の消費物価指数の変動を、代表的な品目を取り上げてより細かく見たものということですね。

教師——その通りです。個々の品目の変動の幅の大きさに目を奪われがちですが、【資料1】と同様、経済の衰退期には物価が下落してきた歴史を読み取ってください。

生徒B——では【資料3】は、その計算式からするとⅢということですか？

教師——そのような理解で正しいですね。ところで、本文では【資料4】【資料5】【資料6】から一〇〇円ショップによく行く人の傾向を読み取っていますが、皆さんはどのようなときに一〇〇円ショップを利用しますか。

生徒A——何か雑貨を買うときは、まず一〇〇円ショップを探しています。一〇〇円ショップになれば他の店を探すという流れが多い気がします。

生徒B——私はお気に入りの文房具店があるので、文房具以外の雑貨を探すときにまず一〇〇円ショップをのぞきます。

教師——なるほど。こだわりのない買い物ときは、まず一〇〇円ショップが購入先の第一候補に挙がるのですね。

生徒B——そう考えると、一〇〇円ショップは私たちの消費行動に本当に大きな影響を与えている存在なんですね。

問八

空白部

Ⅲ

にあてはまるものとして、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。

解答番号は20。

(5点)

- a 物価の変動が消費者の心理に与えた影響をとらえたもの
- b 物価の変動を消費者の個別的要因を省いてとらえたもの
- c 物価の変動を消費者の経済状況も加味してとらえたもの
- d 物価の変動と消費者の経済状況の関係の変化をとらえたもの
- e 物価の変動にみられる消費者の購買行動の特性をとらえたもの

問九 三人の会話の内容と一致するものとして、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。

解答番号は21。(5点)

- a 生徒Aは、自分が買い物するときの購入先の意味決定を振り返って、一〇〇円ショップの影響の大きさを実感している。
- b 生徒Bは、【資料1】の特定の年代や、【資料2】の指数の推移に着目して、物価の変動要因を読み取っている。
- c 教師は、【資料1】【資料2】についての説明を通じて、消費物価指数が世帯年収に連動して推移することを示している。
- d 【資料4】【資料5】【資料6】から読み取れるのと同様の傾向が、生徒Aや生徒Bの消費行動にもみられることがうかがえる。
- e 生徒Aと先生の質疑の内容を参考にして、生徒Bは【資料2】【資料3】を読み取り、新たな話題を引き出している。

三 次の問いに答えなさい。(各2点、計10点)

問一 次の傍線部に当たる漢字と同じものを、それぞれ a ～ d の中から一つ選びなさい。

解答番号は(1)は22、(2)は23、(3)は24。

(1) ホウ食の時代がおとずれる。

a 周囲に祝ホウが鳴り響く。

c 過去の名作を模ホウする。

b 空気中の水蒸気がホウ和する。

d 液晶保護フィルムに気ホウが入る。

(2) キヨウ襟を開いて語り合う。

a 度キヨウには自信がある。

c キヨウ量な性格をとがめる。

b 自然の恩恵をキヨウ受する。

d キヨウ作に備えて穀物を備蓄する。

(3) 分ジヨウ住宅を購入する。

a ジヨウ談をとばす。

c 最大限にジヨウ歩する。

b 醬油しょうゆをジヨウ造する。

d 在庫に余ジヨウが生じる。

問二 次の傍線部の漢字と同じ読みのもを、それぞれ a ～ d の中から一つ選びなさい。

解答番号は(1)は25、(2)は26。

(1) 校長先生が式辞を述べる。

a 瓶を煮沸して消毒する。

c 創作活動に心血を注ぐ。

b 羞恥の念にかられる。

d 養殖している魚に給餌する。

(2) 騷動に巻き込まれる。

a 野良猫に遭遇する。

c 豪雪地帯に住む。

b 愛憎が入り混じる。

d 農地を耕作する。

2026年（令和8年）度 一般入学試験A日程

国語 解答例

2026年2月5日実施
